

労働安全衛生マネジメントシステムに関する ASEAN+3 ダイアログ議事概要

安全衛生マネジメントシステム（以下「OSHMS」という。）に関する ASEAN+3 ダイアログは、日本厚生労働省及びシンガポール人的資源省の共同主催によってシンガポール・リージェントホテルにおいて 2012 年 2 月 29 日～3 月 1 日に開催された。

会議には、ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム、中華人民共和国、日本及び大韓民国の代表の代表ほか ASEAN-OSHNET 事務局（フィリピン）及び ILO の代表が参加した。

会議の概要

会議は、シンガポール人的資源省の Ho Siong Hin 氏から開会の挨拶を兼ねた歓迎の言葉があった。

フィリピン労働雇用省第 1 地域事務所長（ASEAN-OSHNET 代表）の Grace Ursua 氏及び日本厚生労働省労働基準局安全衛生部国際室長 南保昌孝氏から会議の開催にあたって挨拶があった。

第 1 部では、労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）の導入～その結果と利益～と題したシンポジウムを行った。

ILO からアジア・太平洋地域の OSHMS 導入の取り組み状況及び日本の代表から日本国内の OSHMS 導入の取り組み状況の発表があった。また、現地企業よりそれぞれの企業レベルでの OSHMS の導入状況とその経緯について発表があった。

第 2 部では、参加各国からそれぞれの国での OSHMS 導入の政策とその実施状況について発表があった。

第 3 部では、日本の国際室長から、過去 5 年間にわたって開催された「労働安全衛生マネジメントシステムに関する ASEAN+3 ダイアログ」での議論を振り返り、その間に実施したこと及びその成果についての報告があった。その中で今までにマレーシア、ラオス及びフィリピンで開催した会議での結論に言及し、この 5 年間の活動で ASEAN 各国の中小規模事業場の向けの OSHMS ガイドラインの作成という大きな成果を得たこと、これらはそのガイドラインを活用して地域の労働安全衛生水準の向上を図り、労働災害の減少につながる必要があること、及びそのための人材の養成が重要であることを強調した。

また、同氏は日本が国際的な OSHMS のトレーニングコースの開催を予定していることも述べた。

続いて、OSHMS の更なる導入促進のための ASEAN-OSHNET の将来の活動に関する議論では、出席者はこの種の会議を今後も継続する必要があることを強調した。この会議は、情報や直面する課題について共通の認識を持ち、将来の計画を立てるための重要な土台となるものである。出席者は、今後の地域間の協力は OSHMS の導入促進を図る戦略の開発に焦点を置くべきであるとした。その戦略は、次のような事項を含むべきである。

1. 各企業において、OSHMS を導入し、実施するための能力を持たせること。それには OSHMS がそれぞれの国・組織の事情に個別に対応したものであることを保障した解決策を含んだものでなくてはならない。
2. また、それは、企業及び労働者双方の要求を考慮に入れた OSHMS の実施を保障するものではないし、政府・労働者・使用者のすべてに受け入れられるものでなければならない。特に中小規模事業場に焦点を当てたものである必要がある。
3. さらに OSHMS の実施を促進するための有効な法令上の規制及び実施可能な能力を発展させること。

以上の議論を終え、会議は 2012 年 3 月 1 日に終了した。